

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年2月14日
【四半期会計期間】	第41期第3四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）
【会社名】	日本アジア投資株式会社
【英訳名】	Japan Asia Investment Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 下村 哲朗
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段北三丁目2番4号
【電話番号】	03（3221）8518（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 岸本 謙司
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北三丁目2番4号
【電話番号】	03（3221）8518（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 岸本 謙司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期連結 累計期間	第41期 第3四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
営業収益 (百万円)	2,969	2,769	3,709
経常損失 () (百万円)	308	49	399
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (百万円)	363	227	33
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	360	161	174
純資産額 (百万円)	8,403	8,948	9,106
総資産額 (百万円)	25,814	23,830	25,165
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	20.54	12.83	1.89
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	1.88
自己資本比率 (%)	26.3	31.2	29.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,591	542	1,728
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	18	117	61
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,216	1,007	1,216
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (百万円)	3,107	1,891	3,301

回次	第40期 第3四半期連結 会計期間	第41期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日
1株当たり四半期純利益又は純損失 () (円)	1.18	23.94

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第40期第3四半期連結累計期間及び第41期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中において将来について記載した事項は、当四半期報告書提出日現在において判断、予測したものであります。
経営成績の状況の分析

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年12月31日）における当社グループの業績等の概要は、営業収益2,769百万円（前年同期比6.7%減）、営業総利益1,130百万円（同26.0%増）、営業利益62百万円（前年同期 営業損失135百万円）、経常損失49百万円（前年同期 経常損失308百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失227百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失363百万円）となりました。その内訳や背景となる営業活動の状況は、次のとおりです。

（1）経営成績の内訳

（a）営業収益・営業原価内訳

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年 12月31日)	前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)
営業収益合計	2,969	2,769	3,709
うち 管理運営報酬等	90	89	122
うち 営業投資有価証券売却高	1,635	1,661	2,112
うち 組合持分利益・インカムゲイン等	1,223	1,000	1,450
うち その他営業収益	19	19	24
営業原価合計	2,072	1,639	2,516
うち 営業投資有価証券売却原価	946	853	1,199
うち 営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額 合計	224	167	199
うち 組合持分損失等	895	611	1,109
うち その他営業原価	5	7	7
営業総利益	897	1,130	1,192

（管理運営報酬等）

管理運営報酬等には、投資事業組合等の管理報酬と事務受託報酬が含まれます。管理運営報酬等の総額は、前年同期並みの89百万円（前年同期比1.2%減）となりました。このうち管理報酬は、清算手続きを開始したファンドからの報酬減少に伴い減少しました。一方、事務受託報酬は、受託ファンド数の増加等に伴い増加しました。

(投資損益)

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 12月31日)			当第3四半期 連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年 12月31日)			前連結会計年度 (自 2020年4月 1日～ 至 2021年3月31日)		
	プロ ジェ ク ト 投 資 資 産	プ ラ イ ベ ー ト エ ク イ テ ィ 投 資 資 産	合 計	プロ ジェ ク ト 投 資 資 産	プ ラ イ ベ ー ト エ ク イ テ ィ 投 資 資 産	合 計	プロ ジェ ク ト 投 資 資 産	プ ラ イ ベ ー ト エ ク イ テ ィ 投 資 資 産	合 計
営業投資有価証券 売却高(A)	556	1,079	1,635	669	991	1,661	689	1,422	2,112
営業投資有価証券 売却原価(B)	416	529	946	521	331	853	501	697	1,199
実現キャピタルゲ イン(A)-(B)	139	550	689	147	660	807	188	725	913
営業投資有価証券 評価損・投資損失 引当金繰入額 合 計(C)		224	224		167	167		199	199
投資損益(A)-(B) -(C)	139	325	465	147	492	640	188	525	713

営業投資有価証券売却高は、前年同期並みの1,661百万円(同1.5%増)となりました。他方、売却高から売却原価を差し引いた実現キャピタルゲインは、前年同期から増加し807百万円(同17.2%増)となりました。

プライベートエクイティ投資では、前年同期は未上場株式の売却が中心でしたが、当第3四半期連結累計期間は国内で利益率の高い上場株式の売却が中心となったため、実現キャピタルゲインが増加しました。プロジェクト投資では、前年同期は1件のメガソーラープロジェクトを売却しました。一方、当第3四半期連結累計期間は、1件のメガソーラープロジェクトの売却と1件のディストリビューションセンターの一部売却を実施しました。

営業投資有価証券評価損及び投資損失引当金繰入額の合計額は、前年同期から減少し167百万円(同25.4%減)となりました。主な減少要因は、前年同期に比べて、投資残高が比較的少額である投資先企業に対する引き当てが中心であったためです。

以上の結果、実現キャピタルゲインから営業投資有価証券評価損及び投資損失引当金繰入額の合計を控除した投資損益は、前年同期から増加し640百万円(同37.6%増)となりました。

(組合持分利益・インカムゲイン等)

営業収益のうち組合持分利益・インカムゲイン等には、当社グループが運営するプロジェクトの売電収益及び野菜の販売額等、他社が運営するプロジェクトの持分利益(売電収益を源泉としたプロジェクトの純利益や、プロジェクトの売却益)、他社が運営するプライベートエクイティファンドの持分利益、利息・配当収入、及びその他の収益が含まれています。

当第3四半期連結累計期間の組合持分利益・インカムゲイン等の合計額は、前年同期から減少し1,000百万円(同18.3%減)となりました。このうち、当社グループが運営するプロジェクトの売電収益や野菜の販売額等が951百万円(同15.8%減)を占めます。主な減少要因は、売電中のメガソーラープロジェクトの一部を、前連結会計年度に売却したためです。

加えて、他社が運営するプライベートエクイティファンドにおいて投資先企業の株式売却益が減少したため、持分利益が34百万円(同59.1%減)と前年同期から減少しました。

(組合持分損失等)

営業原価のうち組合持分損失等には、当社グループが運営するプロジェクトの売電原価及び野菜の製造原価等、他社が運営するプロジェクトの持分損失(建設中のプロジェクトのコスト等)、及び他社が運営するプライベートエクイティファンドの持分損失等が含まれています。

当第3四半期連結累計期間の組合持分損失等の合計額は611百万円（同31.7%減）となり、前年同期から減少しました。このうち、当社グループが運営するメガソーラープロジェクトの売電原価及び野菜の製造原価等が573百万円（同15.5%減）です。主な減少要因は、売電中のメガソーラープロジェクトの一部を前連結会計年度に売却したためです。また、他社が運営するプライベートエクイティファンドの持分損失が、前年同期から減少し35百万円（同83.5%減）となりました。

以上の結果、営業収益2,769百万円（同6.7%減）、営業原価1,639百万円（同20.9%減）、営業総利益1,130百万円（同26.0%増）となりました。

(b) 販売費及び一般管理費、営業損益

販売費及び一般管理費の合計額は、前年同期から増加し1,068百万円（同3.5%増）となりました。主な増加要因は、人件費の増加や、障がい者グループホームの増加に伴うヘルスケアプロジェクトの運営費用の増加です。

これらの結果、営業利益62百万円（前年同期 営業損失135百万円）となりました。

(c) 営業外収益、営業外費用及び経常損益

営業外収益は、前年同期から増加し82百万円（前年同期比7.3%増）となりました。投資事業組合運用益が減少した一方で、外貨建て資産の回収に伴う為替差益が増加しました。

営業外費用は、前年同期から減少し193百万円（同22.5%減）となりました。主な要因は、借入金の残高減少に伴う支払利息の減少です。

これらの結果、経常損失49百万円（前年同期 経常損失308百万円）となりました。

(d) 特別損益及び親会社株主に帰属する四半期純損益

（特別損益）

特別利益は、前年同期は、投資有価証券の償還益や売却益等が発生し合計で18百万円でした。一方、当第3四半期連結累計期間は、投資有価証券の売却益等が発生し合計で19百万円となりました。

特別損失は、前年同期は、投資有価証券評価損等が発生し合計で30百万円でした。一方、当第3四半期連結累計期間においては、投資有価証券売却損等が合計で107百万円発生しました。

これらの結果、税金等調整前四半期純損失137百万円（前年同期 税金等調整前四半期純損失320百万円）となりました。

（親会社株主に帰属する四半期純損益）

法人税等については、前年同期及び当第3四半期連結累計期間ともに、税効果会計について適切に見積もった結果、繰延税金資産を計上しておりません。

非支配株主に帰属する四半期純損益については、当社グループが運営するファンドやプロジェクトの損益のうち、当社グループ以外の出資者に帰属する部分が計上されています。当第3四半期連結累計期間は、これらのファンドやプロジェクトで発生した利益が前年同期に比べ増加したため、86百万円の利益（前年同期比183.1%増）となりました。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純損失227百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失363百万円）となりました。

キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	前連結会計年度 （自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）
営業活動による キャッシュ・フロー	1,591	542	1,728
投資活動による キャッシュ・フロー	18	117	61
財務活動による キャッシュ・フロー	1,216	1,007	1,216
現金及び 現金同等物期末残高	3,107	1,891	3,301

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期に比べ投資実行に伴う支出が増加したことから、542百万円の支出(前年同期1,591百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資有価証券の売却による収入が発生し、117百万円の収入(同18百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入金の返済による支出が発生し、1,007百万円の支出(同1,216百万円の支出)となりました。返済額を減額したため、前年同期に比べて支出額が減少しました。

加えて、現金及び現金同等物に係る換算差額23百万円を加算した結果、当第3四半期連結会計期間末において現金及び現金同等物の残高は1,409百万円減少して1,891百万円となりました。

財政状態の分析

(資産)

期末残高	前第3四半期 連結会計期間末 (2020年12月31日現在)		当第3四半期 連結会計期間末 (2021年12月31日現在)		前連結会計年度末 (2021年3月31日現在)	
	金額 (百万円)	引当率 (%) (b)/(a)	金額 (百万円)	引当率 (%) (b)/(a)	金額 (百万円)	引当率 (%) (b)/(a)
資産合計	25,814	-	23,830	-	25,165	-
うち 現金及び預金	5,329	-	4,479	-	6,486	-
うち 有形固定資産	9,241	-	8,807	-	7,852	-
うち 営業投資有価証券(a)	9,508	-	9,099	-	9,379	-
うち 投資損失引当金(b)	1,602	16.9	1,475	16.2	1,349	14.4

資産合計は、前連結会計年度末から減少し23,830百万円(前連結会計年度末25,165百万円)となりました。

このうち現金及び預金は、前連結会計年度末から減少し4,479百万円(同6,486百万円)となりました。借入金の返済、経費や利息の支払、投資実行による支出などにより減少しました。

なお、当該金額には、当社グループの運営するファンドに帰属する預金が含まれています。これらは各ファンドの組合契約に従い運用しなければならない資金であり、当社グループに帰属する資金と明確に分別して管理しています。当社グループに帰属する資金は、連結キャッシュ・フロー計算書の現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高の1,891百万円(同3,301百万円)となります。加えて、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難な事業です。そのため、プライベートエクイティ投資からの資金回収額が大きく下振れすることも想定されます。そのような状況の中、経費や利息の支払い及び借入金の返済だけでなく、将来の成長に向けた投資を確実に行うために、当社グループは常に一定の現預金残高を保有する必要があります。

有形固定資産は、主に、当社グループが運営するプロジェクトの再生可能エネルギー発電設備や障がい者グループホームが計上されています。当第3四半期連結会計期間末は、グループホームの建設が進んだことや企画中の発電設備が建設仮勘定に計上されたことから、前連結会計年度末から増加して8,807百万円(同7,852百万円)となりました。

営業投資有価証券には、プライベートエクイティ投資資産に加え、当社が運営するプロジェクトのうち開発の初期段階のものや、他社が運営するプロジェクト資産が計上されています。当第3四半期連結会計期間末の残高は、投資の回収が進捗したため減少し、9,099百万円(同9,379百万円)となりました。

また、投資損失引当金は、繰り入れを行ったことから前連結会計年度末から増加し1,475百万円(同1,349百万円)となりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末における引当率(営業投資有価証券の期末残高に対する投資損失引当金の期末残高の割合)は、前連結会計年度末から1.8ポイント上昇して16.2%となりました。

(負債)

負債合計は前連結会計年度末から減少して14,882百万円(前連結会計年度末16,059百万円)となりました。このうち借入金と社債の残高は、当第3四半期連結会計期間末現在、合計で13,910百万円(同14,990百万円)となり前連結会計年度末から減少しました。このうち、当社単体の金融機関からの借入額は5,943百万円(同6,950百万円)です。残額は、当社グループが運営するプロジェクトにおけるプロジェクトファイナンスと社債の残高7,967百万円(同8,039百万円)です。

(単位:百万円)

	前第3四半期連結会計期間末 (2020年12月31日現在)	当第3四半期連結会計期間末 (2021年12月31日現在)	前連結会計年度末 (2021年3月31日現在)
借入金・社債残高合計	16,625	13,910	14,990
うち 当社単体借入額	6,950	5,943	6,950
うち プロジェクト投資におけるプロジェクトファイナンス・社債	9,674	7,967	8,039

当社単体の借入金については、当第3四半期連結会計期間中に1,007百万円を返済したため前連結会計年度末から減少しました。今後も、将来の成長に向けた投資資金を確保した上で、当社単体の借入額を返済して参ります。

また、当社グループが運営するプロジェクトにおけるプロジェクトファイナンス・社債は、返済に伴い前連結会計年度末から72百万円残高が減少しました。なお、当社グループの運営するプロジェクトにおけるプロジェクトファイナンス・社債は、プロジェクトの資産や収益のみを返済原資としているため当社グループの財務健全性には影響を与えません。そのため、当社は、今後も当社グループの運営する再生可能エネルギー等の多様なプロジェクトにおいて、プロジェクトファイナンス・社債による資金調達を組み合わせることでレバレッジを効かせた投資を行い、財務健全性を損ねることなく収益性を高めていく方針です。

(純資産)

純資産のうち自己資本は、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したものの有価証券の含み益が増加したため、前連結会計年度末から増加し7,444百万円(同7,328百万円)となりました。一方で総資産は前連結会計年度末から減少したため、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末から2.1ポイント上昇し31.2%(同29.1%)となりました。なお、純資産全体では、ファンドの出資金の異動や分配に伴い非支配株主持分が減少したため、前連結会計年度末から減少し8,948百万円(同9,106百万円)となりました。

営業活動の状況

(a)投資及び融資の状況

当社グループによる自己勘定並びに当社グループが運営の任にある、又は運営の為に必要な情報の提供を行っているファンド、並びに当社グループが運営に関わらない当社以外の第三者が運営するファンドのうち投資対象が特定されているもの等による投融資実行額及び投融資残高の内訳は以下のとおりであります。

投資及び融資実行額内訳（自己勘定分及びファンド勘定分）

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)		前連結会計年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	
	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)
1) 地域別						
プロジェクト投資(全て日本)	10	635	14	1,427	14	1,445
プライベートエクイティ投資 小計	4	242	8	1,482	5	322
うち 日本	4	242	8	1,482	5	322
うち 中華圏(中国、香港、 台湾)他	-	-	-	-	-	-
2) 種別						
プロジェクト投資 小計	10	635	14	1,427	14	1,445
うち 再生可能エネルギー	3	226	4	382	4	246
うち ヘルスケア	3	120	6	159	5	452
うち スマートアグリ	1	80	1	415	1	530
うち ディストリビューショ ンセンター	3	209	2	365	4	217
うち その他	-	-	1	105	-	-
プライベートエクイティ投資 小計	4	242	8	1,482	5	322
うち 戦略投資	2	184	3	359	2	214
うち フィナンシャル投資	2	57	5	1,122	3	107
合計	14	877	22	2,909	19	1,767

- (注) 1. 当社グループによるプロジェクトに対する融資実行が増加したため、前連結会計年度より、プロジェクトに対する融資(破産更生債権等を除く)を集計範囲に含める方法に変更しております。この変更に伴い、前第3四半期連結累計期間の投資及び融資実行額は4件、120百万円増加しております。
2. 前連結会計年度より、2020年12月28日に開示した2022年3月期から2024年3月期までの中期経営計画に基づき、表示項目を変更しております。この変更に伴い、前第3四半期連結累計期間の数値も組み替えて表示しております。
3. 戦略投資とは、当社グループが投融資を行うプロジェクトにおいてパートナーとなる企業に対する投資です。フィナンシャル投資とは戦略投資以外の企業に対する投資です。

投資及び融資残高内訳（自己勘定分及びファンド勘定分）

	前第3四半期 連結会計期間末 (2020年12月31日現在)		当第3四半期 連結会計期間末 (2021年12月31日現在)		前連結会計年度末 (2021年3月31日現在)	
	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)	社数又は件数; (社・件)	金額 (百万円)
1) 地域別						
プロジェクト投資(全て日本)	34	5,742	40	6,787	33	6,088
プライベートエクイティ投資 小計	91	7,201	87	7,836	88	6,767
うち 日本	51	3,876	48	4,906	48	3,652
うち 中華圏(中国、香港、 台湾)他	40	3,325	39	2,929	40	3,115
2) 種類別						
プロジェクト投資 小計	34	5,742	40	6,787	33	6,088
うち 再生可能エネルギー	25	4,426	20	3,994	21	3,999
うち ヘルスケア	4	408	12	893	6	738
うち スマートアグリ	1	98	1	879	1	532
うち ディストリビューショ ンセンター	3	532	5	665	4	540
うち その他	1	277	2	354	1	277
プライベートエクイティ投資 小計	91	7,201	87	7,836	88	6,767
うち 戦略投資	6	1,190	7	1,432	6	1,155
うち フィナンシャル投資	85	6,011	80	6,403	82	5,612
合計	125	12,944	127	14,623	121	12,855

- (注) 1. 当社グループによるプロジェクトに対する融資実行が増加したため、前連結会計年度より、プロジェクトに対する融資(破産更生債権等を除く)を集計範囲に含める方法に変更しております。この変更に伴い、前第3四半期連結会計期間末の投資及び融資残高は3件、208百万円増加しております。
2. 前連結会計年度より、2020年12月28日に開示した2022年3月期から2024年3月期までの中期経営計画に基づき、種類別の表示を変更しております。この変更に伴い、前第3四半期連結会計期間末の数値も組み替えて表示しております。
3. 戦略投資とは、当社グループが投融資を行うプロジェクトにおいてパートナーとなる企業に対する投資です。フィナンシャル投資とは戦略投資以外の企業に対する投資です。

投融資実行額は、前年同期から増加し合計で22社、2,909百万円(前年同期比231.5%増)となりました。また、投融資残高は、当第3四半期連結会計期間末において127社、14,623百万円(前連結会計年度末121社、12,855百万円)となり、前連結会計年度末から増加しました。

プライベートエクイティ投資については、原則として、当社の自己資金を用いる場合は、経営理念に従った事業テーマに基づきプロジェクト投資のパートナー企業に対して選別的に戦略投資を行います。また、ファンドの資金を用いる場合は、ファンドの投資方針に基づいてフィナンシャル投資を行います。

当第3四半期連結累計期間の投資実行額は、前年同期から増加し8社、1,482百万円(前年同期比512.3%増)となりました。戦略投資を実行した他、事業承継を支援するファンドから大型の投資を実行したことに加え、新規に設立したファンドからも投資を実行しました。投資回収については、国内外で上場株式の売却やM&Aに伴う未上場企業の売却が実現しました。投資実行の増加を受けて、投資残高も前連結会計年度末から増加し、87社、7,836百万円(前連結会計年度末88社、6,767百万円)となりました。

プロジェクト投資の投融資実行額は、前年同期から増加し14件、1,427百万円（前年同期比 124.5%増）となりました。前年同期に比べて、主としてスマートアグリプロジェクトへの投資金額が増加しました。他方で、当第3四半期連結累計期間中のプロジェクトの売却は、一部売却を含めて2件でした。その結果、投資残高は前連結会計年度末から増加し、40件、6,787百万円（前連結会計年度末33件、6,088百万円）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末現在において投資を行っているメガソーラープロジェクト（JAICソーラー2号投資事業有限責任組合からの投資も含む）は、売却や回収した案件を除き合計で15件（17発電所）、48.7MWとなりました。このうち、当社が出資した持分に帰属する部分は23.6MWです。また、メガソーラー以外の再生可能エネルギープロジェクトに対する投資実績は、木質バイオマス発電プロジェクトが1件、2.0MW、バイオガス発電プロジェクトが2件、1.1MW、バイオガス発電所のオペレーターが1件、風力発電プロジェクトが1件、最大25.2MWです。

(b) IPO（新規上場）の状況

当社グループによる自己勘定並びに当社グループが運営の任にある、又は運営の為に必要な情報の提供を行っているファンドから投資を行った投資先企業のIPO（新規上場）の状況は以下のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間においては、当社の戦略投資先であるリニューアブル・ジャパン株式会社がIPOを実現しました。当社は近年、当社グループが投融資を行うプロジェクトにおいてパートナーとなる企業に対し投資を行うとともに、プロジェクトでの協業を通じて積極的な支援を行う「戦略投資」に注力してきましたが、その成果の一つが現れたものです。

IPOの状況（自己勘定分及びファンド勘定分）

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
IPO社数 (国内・海外 合計)	2社	3社	2社
初値換算投資倍率 (国内・海外 平均)	2.3倍	5.6倍	2.3倍

(注) 初値換算投資倍率 = 初値換算による保有株式の時価 / 保有株式への投資額 (IPO時簿価残高)。なお、初値換算投資倍率の計算には株式交換等による上場株式取得分は含めておりません。

IPOした投資先企業の一覧

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

社数	投資先企業名	上場年月日	上場市場	事業内容	本社所在地
国内: 3社 海外: -社	ワンダープラネット株式会社	2021年6月10日	東京証券取引所 マザーズ	エンターテインメントサービス事業	愛知県
	株式会社ラストワンマイル	2021年11月24日	東京証券取引所 マザーズ	インサイドセールス等を活用した新電力、新ガス、インターネット回線等のインフラサービスの取次販売及び自社サービス「まるっとシリーズ」の提供	東京都
	リニューアブル・ジャパン株式会社	2021年12月22日	東京証券取引所 マザーズ	再生可能エネルギー発電所開発・運営事業	東京都

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

社数	投資先企業名	上場年月日	上場市場	事業内容	本社所在地
国内: 2社 海外: -社	株式会社ファンベップ	2020年12月25日	東京証券取引所 マザーズ	機能性ペプチドを用いた医薬品等の研究開発事業	東京都
	クリングルファーマ株式会社	2020年12月28日	東京証券取引所 マザーズ	HGF（肝細胞増殖因子）タンパク質を用いた難治性疾患の治療薬の研究開発	大阪府

(c)ファンドの状況

当第3四半期連結会計期間末における当社グループが管理、運用又は投資情報の提供を行っているファンドの運用残高は、10ファンド、16,091百万円（前連結会計年度末11ファンド、16,450百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、1ファンド（ファンド総額1,001百万円）を新規設立しました。また為替の変動による増加も発生しました。一方で、清算中であった1ファンド（ファンド総額500百万円）、満期延長中であった1ファンド（ファンド総額1,178百万円）が減少しました。その結果、ファンド総額は前連結会計年度末から減少しました。

運用残高

	前第3四半期 連結会計期間末 (2020年12月31日現在)			当第3四半期 連結会計期間末 (2021年12月31日現在)			前連結会計年度末 (2021年3月31日現在)		
	ファンド数	ファンド 総額 (百万円)	ファンドの 純資産額 (百万円)	ファンド数	ファンド 総額 (百万円)	ファンドの 純資産額 (百万円)	ファンド数	ファンド 総額 (百万円)	ファンドの 純資産額 (百万円)
運用期間中	6	8,439	3,860	5	7,511	4,024	4	6,510	2,720
満期延長中	4	6,609	2,185	3	5,943	864	4	6,913	2,279
清算期間中	1	1,011	55	2	2,636	1,130	3	3,026	1,053
合計 (うち当社 グループ出 資額)	11	16,059 (5,268)	6,101	10	16,091 (4,805)	6,019	11	16,450 (5,434)	6,053

(注) 投資資産を保有した状態で清算期間に入るファンドが増加したため、前連結会計年度より清算期間中のファンドを含めて開示しております。この変更に伴い、前第3四半期連結会計期間末の数値も組み替えて表示しております。

運用期間中のファンド（当第3四半期連結会計期間末（2021年12月31日現在））

ファンド名	設立時期	ファンド満期	ファンド総額 (百万円)	特徴
JAIC企業育成投資事業有限責任組合	2016年2月	2026年2月	2,000	主に国内のベンチャー企業を対象として、他社の運営するファンドが保有する投資証券の買い取り等、広範な投資機会を追求するファンド
サクセッション1号投資事業有限責任組合	2017年6月	2027年6月	3,000	当社と(株)あおぞら銀行で設立した合弁会社（持分法を適用していない関連会社）が運営するファンド 日本国内の事業承継問題を抱える中小企業を投資対象とする
JAICソーラー2号投資事業有限責任組合	2020年3月	2039年12月	1,359	稼働済みメガソーラープロジェクトを投資対象とするファンド
北海道地域中小企業グローバル化支援投資事業有限責任組合	2020年4月	2026年12月	151	当社と(株)アジアマーケット企画が共同で運営するファンド 北海道に所在もしくは展開している企業の海外展開支援や、インバウンド需要向け事業展開支援を行う

ファンド名	設立時期	ファンド満期	ファンド総額 (百万円)	特徴
AJC企業育成投資事業有 限責任組合	2021年 6月	2031年 6月	1,001	当社と(株)あおぞら銀行で設立した合弁会 社(持分法を適用していない関連会社) が運営するファンド 主に国内のベンチャー企業を対象とし て、他社の運営するファンドが保有する 投資証券の買い取り等、広範な投資機会 を追求するファンド

(注) 1. 外貨建によるファンドは、各連結会計年度末日現在の為替レートに乗じて計算した金額を記載しております。従って、運用資産の増減額には為替による影響額も含まれております。

2. ファンド総額につきましては、コミットメントベース(契約で定められた出資約束金額ベース)の金額を記載しております。

経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において経営方針・経営戦略等の重要な変更はありません。

優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題はありません。

研究開発活動

該当事項はありません。

経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した要因はありません。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(当社グループの資金状況)

「キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(当社グループの借入金の状況)

「財政状態の分析(負債)」に記載のとおりであります。

(当社グループのファンドの状況)

「営業活動の状況(c)ファンドの状況」に記載のとおりであります。

(当社グループ及び管理運営するファンドにおける投資活動の状況)

「営業活動の状況(a)投資及び融資の状況」に記載のとおりであります。

(当社の資本政策の具体的な方針)

当第3四半期連結累計期間において重要な変更はありません。

従業員数

当第3四半期連結累計期間において従業員数の著しい増減はありません。

主要な設備の状況

該当事項はありません。

会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,536,200
計	37,536,200

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,884,392	17,884,392	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,884,392	17,884,392	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減 額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日	-	17,884,392	-	5,426	-	1,426

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 181,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 17,699,100	176,991	-
単元未満株式	普通株式 4,292	-	一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	17,884,392	-	-
総株主の議決権	-	176,991	-

- (注) 1 単元未満株式数には当社所有の自己株式9株が含まれております。
2 上記「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には証券保管振替機構名義の株式が300株（議決権3個）含まれております。

【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
（自己保有株式） 日本アジア投資 株式会社	東京都千代田区 九段北3丁目2番 4号	181,000	-	181,000	1.01
計		181,000	-	181,000	1.01

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数第3位以下を切捨てて表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,486	4,479
営業投資有価証券	9,379	9,099
投資損失引当金	1,349	1,475
営業貸付金	204	204
その他	355	352
流動資産合計	15,075	12,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	211	296
減価償却累計額	9	20
建物及び構築物(純額)	201	276
機械及び装置	7,968	8,591
減価償却累計額	514	874
機械及び装置(純額)	7,453	7,717
車両運搬具及び工具器具備品	55	149
減価償却累計額	38	45
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	16	103
土地	46	155
建設仮勘定	133	554
有形固定資産合計	7,852	8,807
無形固定資産		
発電設備開発権利金	1,210	1,515
その他	246	228
無形固定資産合計	1,456	1,743
投資その他の資産		
投資有価証券	365	83
破産更生債権等	49	7
その他	377	536
貸倒引当金	12	7
投資その他の資産合計	780	619
固定資産合計	10,089	11,170
資産合計	25,165	23,830

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	919	891
1年内償還予定の社債	6	6
未払費用	389	129
未払法人税等	39	27
賞与引当金	49	26
その他	30	191
流動負債合計	1,434	1,273
固定負債		
社債	185	181
長期借入金	13,879	12,830
繰延税金負債	19	44
退職給付に係る負債	137	148
資産除去債務	403	404
固定負債合計	14,624	13,608
負債合計	16,059	14,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,426	5,426
資本剰余金	3,515	3,515
利益剰余金	1,575	1,817
自己株式	353	353
株主資本合計	7,012	6,770
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	124	463
為替換算調整勘定	191	210
その他の包括利益累計額合計	316	673
新株予約権	27	30
非支配株主持分	1,749	1,473
純資産合計	9,106	8,948
負債純資産合計	25,165	23,830

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業収益	2,969	2,769
営業原価	2,072	1,639
営業総利益	897	1,130
販売費及び一般管理費	1,032	1,068
営業利益又は営業損失 ()	135	62
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	2	1
為替差益	19	67
投資事業組合運用益	43	1
雑収入	4	3
営業外収益合計	76	82
営業外費用		
支払利息	249	192
雑損失	-	0
営業外費用合計	249	193
経常損失 ()	308	49
特別利益		
投資有価証券売却益	4	19
投資有価証券償還益	8	-
その他	5	0
特別利益合計	18	19
特別損失		
投資有価証券売却損	-	107
投資有価証券評価損	27	-
その他	3	0
特別損失合計	30	107
税金等調整前四半期純損失 ()	320	137
法人税、住民税及び事業税	12	3
法人税等合計	12	3
四半期純損失 ()	332	140
非支配株主に帰属する四半期純利益	30	86
親会社株主に帰属する四半期純損失 ()	363	227

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失()	332	140
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	134	372
為替換算調整勘定	10	42
持分法適用会社に対する持分相当額	151	28
その他の包括利益合計	27	301
四半期包括利益	360	161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	440	130
非支配株主に係る四半期包括利益	80	31

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	320	137
減価償却費	24	23
投資損失引当金の増減額(は減少)	45	38
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	4
賞与引当金の増減額(は減少)	35	22
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	14	10
受取利息及び受取配当金	6	6
支払利息	98	81
投資事業組合運用損益(は益)	43	1
投資有価証券売却損益(は益)	-	87
営業投資有価証券評価損	27	29
営業投資有価証券の増減額(は増加)	429	744
営業貸付金の増減額(は増加)	118	157
破産更生債権等の増減額(は増加)	11	41
投資事業組合への出資による支出	422	1,636
投資事業組合からの分配金	2,107	1,882
投資事業組合等の非支配株主持分の増減額(は減少)	28	67
その他	96	166
小計	1,591	414
利息及び配当金の受取額	6	6
利息の支払額	124	103
法人税等の支払額	24	40
法人税等の還付額	142	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,591	542
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	48	-
有形固定資産の売却による収入	10	-
無形固定資産の取得による支出	35	-
投資有価証券の売却による収入	46	117
投資有価証券の償還による収入	38	-
その他	7	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	18	117
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	1,216	1,007
その他	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,216	1,007
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	23
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	383	1,409
現金及び現金同等物の期首残高	2,723	3,301
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,107	1,891

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

これにより、その他有価証券のうち、未上場投資先の株式以外の投資等は、従来、取得価額をもって貸借対照表価額としておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首から時価をもって貸借対照表価額とし、生じた評価差額は全部純資産直入法による会計処理を採用しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症による当社グループへの影響に関する仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
給料諸手当	189百万円	230百万円
組合持分経費	243	235

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表科目金額の関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
現金及び預金勘定	5,329百万円	4,479百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	65	65
投資事業組合等の預金	2,157	2,522
現金及び現金同等物	3,107	1,891

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

当社グループは、投資事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

前連結会計年度(2021年3月31日)

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注)2.参照)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	6,486	6,486	-
(2)営業投資有価証券及び 投資有価証券 投資損失引当金()	1,436 43		
	1,393	1,393	-
(3)短期借入金	919	919	-
(4)1年内償還予定の社債	6	6	-
(5)社債	185	187	2
(6)長期借入金	7,436	7,448	11

()債券に対応する投資損失引当金を控除しております。

(注)1.金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)営業投資有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。債券について、債務者の信用リスクに基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表計上額から対応する投資損失引当金を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

負債

(3)短期借入金、(4)1年内償還予定の社債

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)社債

当社グループの発行する社債は、市場価格のないものであり、元利金の合計額を同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6)長期借入金

長期借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2.時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (2021年3月31日)
(1)非上場の株式及び債券等(1)	6,160
(2)組合等出資金(2)	2,149
(3)長期借入金(3)	6,442

(1)非上場の株式及び債券等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。

(2)組合等出資金は、組合財産の大部分が非上場株式等の時価を把握することが極めて困難と認められるもの、又は市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているため、時価開示の対象としておりません。

(3)長期借入金については、その弁済計画について、全取引金融機関からご同意をいただいております。連結決算日現在、将来のキャッシュ・フローは確定していないため、時価開示の対象としておりません。

当第3四半期連結会計期間（2021年12月31日）

現金及び預金、営業投資有価証券、投資有価証券、短期借入金、1年内償還予定の社債、社債、長期借入金が、企業集団の事業の運営において重要なものであるため記載しております。なお、市場価格のない株式及び出資金等は、含まれておりません。（（注）2．参照）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	4,479	4,479	-
(2) 営業投資有価証券及び 投資有価証券	1,331	1,331	-
(3) 短期借入金	891	891	-
(4) 1年内償還予定の社債	6	6	-
(5) 社債	181	186	5
(6) 長期借入金	7,197	7,207	10

(注) 1．金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 営業投資有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。債券等については、元利金の合計額を当該債券等の発行期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) 短期借入金、(4) 1年内償還予定の社債

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 社債

当社グループの発行する社債は、市場価格のないものであり、元利金の合計額を同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 長期借入金

長期借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。固定金利によるものは、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2．市場価格のない金融商品

(単位：百万円)

区分	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
(1) 非上場の株式 (1)	6,061
(2) 組合等出資金 (2)	1,790
(3) 長期借入金 (3)	5,633

(1) 非上場の株式については市場価格がないので、時価開示の対象としておりません。

(2) 組合等出資金は、四半期連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上しています。そのため、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-16項を適用し、時価開示の対象に含めておりません。また、当第3四半期連結会計期間末における組合等出資金に係る四半期連結貸借対照表計上額の合計額は、1,790百万円であります。

(3) 長期借入金については、その弁済計画について、全取引金融機関からご同意をいただいております。当第3四半期連結会計期間の末日現在、将来のキャッシュ・フローは確定していないため、時価開示の対象としておりません。

(有価証券関係)

その他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものであるため記載しております。

前連結会計年度末(2021年3月31日)

その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	84	108	24
(2) 債券	1,327	1,327	-
(3) その他	-	-	-
合計	1,411	1,436	24

(注) 以下については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
株式	5,699
債券	390
その他	2,179
合計	8,268

当第3四半期連結会計期間(2021年12月31日)

その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	139	488	348
(2) 債券	908	842	65
(3) その他	0	0	-
合計	1,048	1,331	283

(注) 以下については、市場価額のない株式及び出資金等に該当するため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)
その他有価証券	
株式	6,047
債券	-
その他	1,790
合計	7,837

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

子会社出資持分の追加取得

1. 取引の概要

(1)結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称:関係会社が管理運営する投資事業組合1ファンド

事業の内容:主に中国蘇州地区における未上場企業への投資

(2)企業結合日

2021年7月16日

(3)企業結合の法的形式

組合員の出資持分の追加取得

(4)結合後企業の名称

変更はありません。

(5)その他取引の概要に関する事項

関係会社が管理運営する投資事業組合の組合員より、当該組合員が保有するファンドの出資持分を譲渡する旨の意向を受けました。

当社としては、譲渡にかかる諸条件について合意したため、譲り受けたものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 子会社出資持分の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	130百万円
取得原価		130百万円

4. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1)資本剰余金の主な変動要因

子会社出資持分の追加取得

(2)非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額

0百万円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、投資事業の単一セグメントであり、営業収益のうち顧客との契約から生じる収益は、下記のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

(単位:百万円)

	管理運営報酬等	営業投資有価証券売却高	組合持分利益・インカムゲイン等(1)	その他(2)	計
一時点で移転される財	-	-	931	1	933
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	89	-	-	17	106
顧客との契約から生じる収益	89	-	931	19	1,039
その他の収益(3)	-	1,661	68	0	1,730
外部顧客への売上高	89	1,661	1,000	19	2,769

(1) 組合持分利益・インカムゲイン等には、当社グループが運営するプロジェクトの売電収益及び野菜の販売額等が含まれております。

(2) コンサルティング収益が主なものであります。

(3) その他の収益は、「収益認識に関する会計基準」の適用範囲外から生じた収益であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日至2021年12月31日)
1株当たり四半期純損失()	20円54銭	12円83銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	363	227
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	363	227
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,703	17,703
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

日本アジア投資株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 森田 高弘
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 佐々木 浩一郎
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本アジア投資株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本アジア投資株式会社及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において

四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。